

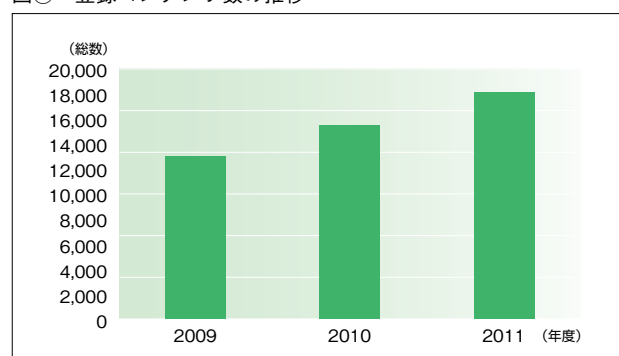
早稲田大学リポジトリ(DSpace@Waseda University)の進捗

1 本学リポジトリの現況

ここ数年、早稲田大学リポジトリ(DSpace@Waseda University)に登録している学術成果の数は、年間約2,000件の割合で増えており(図①)、2011年度末時点で、18,000件を超えるコンテンツが登録されている。閲覧数も、年間約50万件～70万件、ダウンロード数は約150万～200万件と、学内外から一定の利用を得ている(図②)。

タイプ別コンテンツ数(表①)を見ると、紀要論文に続いて、図書館の所蔵資料・刊行物を中心とした図書、本学の学位論文の登録が多い。また、ダウンロード数上位に占めるコンテンツの多くは学位論文、紀要論文であり、本学リポジトリの特色である、広く世間に流通しておらず、本学ならではの学術成果の収載に力を入れるという方針を端的に表している。

図① 登録コンテンツ数の推移



2 DSpace 1.7.2 の導入

リポジトリの利用者、登録コンテンツ数が増加する中で、システム的な側面からも、利用者のニーズを満たすべく改良を行う必要性が出てきた。2011年度には、老朽化したサーバーの更新に併せて、リポジトリシステムのバージョンアップを行った。

本学のリポジトリシステム、DSpaceは世界中で最も使用されているオープンソースのリポジトリシステムである。今までの本学のシステムはDSpaceのうち比較的初期のバージョン(1.4.1)を使用していたため、今回、より新しいバージョン(1.7.2)を導入し、システムの安定性と機能の向上をはかることにした。

DSpace 1.7.2は1.4.1に比べ、主たる改良点として、Google Scholarによるインデクス機能の向上があり、統計機能の強化、エンバーゴ機能(注釈: 特定の期間後に当該論文を公開する機能)、メタデータバッチ処理機能なども更新されている。

3 コミュニティの整理

上記システム上の変更に加えて、既存のコミュニティの見直しに着手した。コミュニティとは、リポジトリの階層構造の一つで、本学リポジトリでは、主に学術院や機関など組織ごとにコミュニティを作成し、その下に関連するコンテンツを集めたコレクションを作成している。

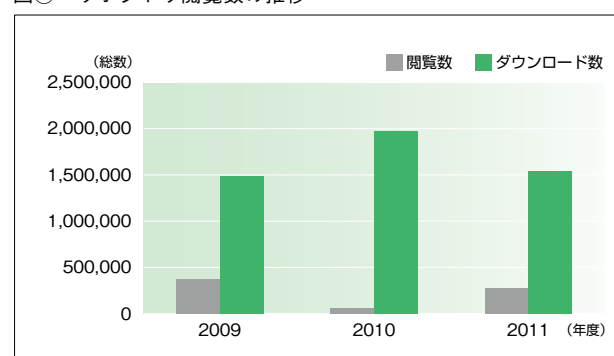
過去において、どのコンテンツをどのコミュニティ、コレクションに保存するかというルールが明文化されておらず、担当者の判断によるところが大きかった。今回、改めてルール化することで、より一貫性のある階層構造とし、目的のコンテンツにたどりつきやすくなるよう改善を図っていききたい。

以上の更新から、主として視認性の点で向上がはかられ、外部検索エンジンからの利用も含めて、利用者にとって今まで以上に、利用しやすいリポジトリになることが期待される。

4 今後の課題

システム面でのリポジトリの整備は一応整った。今後はそれらシステムを活かし、人的な体制を整えたうえで、コンテンツ(学術成果)が更に増えるように、学内の関係部署と連絡を取り、より一層の働きかけを行っていききたい。

図② リポジトリ閲覧数の推移



表① タイプ別コンテンツ数

タイプ	登録コンテンツ数
学術雑誌論文	285
学位論文	1,489
紀要論文	9,603
会議発表論文	810
会議発表資料	14
図書	4,833
テクニカルレポート	18
研究報告書	431
一般雑誌記事	12
教材	791
その他	32
計	18,318

(2011年度末現在)